

一人一人の思い出を大切に

中 二

夏休みにテレビを観ていたところ、四年前にイギリスの放送局BBCが、世界に最も刺激を与えた人を表彰したという話題を放送していた。たくさん的人物がノミネートされた中で、この賞を受賞したのは、オランダ人のケース・ヴェルボーさんという人だった。彼の職業は救急車の運転手で、通常は病院から病院に患者さんを移送する仕事をしていた。ある日、移送先の病院の準備が間に合わず、三時間後に到着するように連絡を受けた。その時ケースさんは、末期のがん患者のマリオさんが出発する際に「病院の天井と違う景色を三ヶ月ぶりに見られるだけでありがたい。」と言っていたのを思い出し、行きたいところを訪ねることにした。海をとっても愛していたマリオさんは元船員で、「港に行きたい。」という願いを一時間だけかなえることができ、涙を流して喜んでいった。さらに、ケースさんは、マリオさんに船の上から海を見せたいと思い、行動し、その大きな夢

までもかなえるためのサポートをした。その後彼は、がんなどの末期の症状によって自分で動くことが困難な人たちの願いをかなえるという、世界で初めてのサービスを始めた。

私は、この放送を観て、人は体が動けなくなつたとしても希望や願いをもっていて、それをかなえたいと思う人の優しさで、人生の最後まで幸せを感じる事ができるような気がした。一人一人が大切にしているものや思いはそれぞれ違うけれど、その思いを周りの人が大切に受け止めることで、その人自身を大切にすることにつながると思う。

私たちの普段の生活でも、一人一人が大切にしているものは様々だ。その世界を知らない人から見れば、理解できない趣味や好きなことでも、本人にとってみれば、それがあって毎日の心の支えになったり、楽しみにつながったりしていると思う。だからこそ、それぞれが大切にしている「何か」をお互いに尊重していくことが必要だ。

例えば、豚肉を食べない文化をもつ人たちの中には、豚肉を食べないだけでなく、豚肉を調理したこのあるフライパンや鍋を使われることに

苦痛を感じる人もいると聞いたことがある。洗剤できれいに洗っているから大丈夫という考え方も通用しないという。ある人が大切にしている「何か」は、周りの人の常識で考えようとしても意味がない。だから、たとえ自分とは違った価値観だとしても、そういう考え方をする人もいるということを知っておいたほうがいいし、できる限りその思いを尊重することが必要だと思う。

「人間が人間らしく幸せに生きる権利」を守るためには、私たち一人一人が、自分以外の誰かが大切にしている「何か」を尊重することが大切だと強く感じる。その上で、お互いに協力して一つの社会や世界を創っていくためには、どこまで歩み寄ったり、譲り合ったりできるのかを見つけていかなくてはいけない。

そこで、私が今できることは何かと考えてみると、まずは広い視野でいろいろな文化や考え方を知ることや、今社会で起きていることや背景にあつたことなどに興味をもって学んでいくことだと感じた。そして、自分と違う文化や考え方を尊重し、柔軟に受け入れて、共に生きていく社会を創る人になりたい。